

ニュースレター

いりおもでの森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成21年5月発行 NO:19号



ツルアダン

木道周辺におけるモニタリングの資質向上を目的としたガイド研修会を開催

5月26日(火)、西表島大原の竹富町離島振興総合センター及び仲間川河口干潟において、沖縄森林管理署及び当センター主催の「研修会」を初めて開催しました。

この研修会は、仲間川支流から西表亜熱帯樹木展示林に至る区間に設置した木道を活用して、木道及びその周辺における希少野生動植物種のモニタリングを実施しており、このモニタリングの資質を高めることを目的として開催したものです。

研修会の講師には、伊谷玄氏(西表島エコツーリズム協会事務局長)、小菅丈治氏(琉球大学国際マングローブ生態系協会)を招き、マングローブ林内に生息するカニ類等の生態と見分け方について座学及び現地にて詳しく説明して頂きました。

当日は、朝から雨が降り出し、生憎の天候となりましたが、予定どおり開催しました。雨の中での開催にもかかわらず、参加者の皆さんは熱心に講師の一言一言に聞き入れ、全員が研修を満喫して笑顔で帰路につかれました。参加者の総数は28名(講師2名、一般参加者18名、沖縄森林管理署4名、当センター4名)でした。



カニの生態等について受講



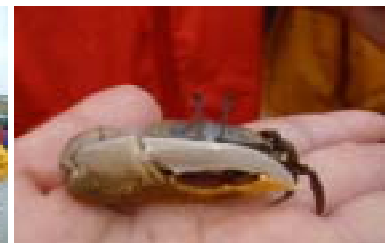
仲間川河口にて現地研修



伊谷講師による現地研修



小菅講師による現地研修



研修に参加してもらった
ヒメシオマネキ

「西表島の名木集」及び「クリアファイル」が完成 竹富町内の各小中学校に配布

平成20年度に竹富町教育委員会と共同で、西表島に生育している巨樹・巨木、天然記念物に指定されている木、各小中学校のシンボルとなっている木、人が植えてきた木、昔から語り継がれている木等についての調査が終了し、今回、「西表島の名木集」として編纂することができました。

早速、4月3日から8日にかけて竹富町内の各小中学校に森林環境教育の教材として活用していただきたく、配布することができました。

また、西表島に生育している7種類のマングローブ及び森の巨人たち百選に指定されている仲間川のサキシマスオウノキ及びウタラ川のオヒルギの画像を印刷した「クリアファイル」も完成しましたので、「西表島の名木集」と併せて配布しました。



名木集



古見小学校長へ



クリアファイル

石垣ロータリークラブの定例会にて当センターの活動をPR

3月18日(水)、石垣ロータリークラブから定例会での講話依頼があったことから、「西表島における5年間の活動」と題して、西表島での自然再生活動及び森林環境教育等について説明しました。会場ではパワーポイントを使用し、画像を主体に西表島での取り組み状況について、持ち時間30分以内で比較的理解しやすい内容で説明したつもりでしたが、専門用語が理解されたのかなどの反省点もありました。出席したクラブメンバーは20名程度でしたが、当センターの活動についてPRすることができました。今後においても、このような機会があれば、当センターのPRを行いたいと思います。

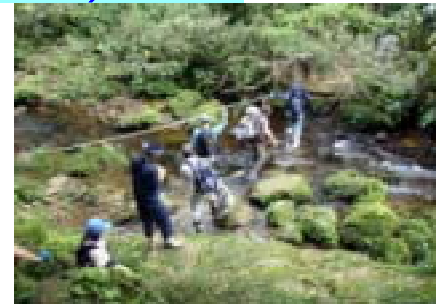


会場にてPR

第1回西表縦走線適正利用推進協議会(仮称)に出席

3月24日(火)、西表島西部のワイワイホールにて環境省・竹富町主催の「第1回西表縦走線適正利用推進協議会(仮称)」が開催されました。協議会は、関係者間の情報共有を図るとともに、横断道の整備及び管理方針などの検討を行い、安全で適正な利用を推進することを目的としています。

当日は、防災、管理や利用面で関係する行政担当者、トレッキングツアーを実施している方々など16名が出席して、意見交換が行われました。出席者からは、「ガイドブックでは、西表島横断道は楽に行けるコースとして紹介されている冊子もある。しかし、現地は崩壊地や倒木があり、足元は草が茂り、雨が降れば急に増水することも度々あり危険である。」などの意見がありました。協議会では、環境省が次年度に予定している現地調査等について協力していくこととしています。



協議会開催前に行われた
西表縦走線合同巡視の状況

小学校で樹木名調べ学習を指導

5月12日(火)、石垣市立白保小学校(西村友三郎校長)からの要請により、総合的な学習の時間を活用して校庭の樹木名の指導を実施しました。当日は、6年生の児童23名を対象に、遠山自然再生指導官が講師となり樹木名調べの指導を行いました。同校の校庭には「白保小学校の三本木」と称される大木をはじめ、数多くの樹木が植栽されています。児童達は、樹木の特徴、似た植物の見分け方など、指導官の詳しい説明と、あらかじめ配布してあった植物リストと現物とを見比べながら熱心にメモを取り、約70種の樹木名を覚えていきました。なお、説明した樹木にはそれぞれ樹木名を記載したラベルを取り付け、今後、児童がいつでも樹木名を覚えられるようにしました。

授業の最後には、児童代表から「樹木の特徴などよく分かった」、「校庭の樹木名を全部覚えたい」など、お礼の言葉がありました。

学校では、今後、児童自身が樹木名を調べ、6年生が下級生に教えるなど、樹木検定に資することができるように取り組んでいきたいとのことでした。

児童達が樹木名を覚えることを機会に、自然に親しみ、身近な環境ひいては地球環境を守ろうとする心が醸成されることを期待しています。



白保小学校の校庭にて



説明を熱心に聞く児童達

平成20年3月期、21年4・5月期 ヒナイ川、西田川の利用状況調査報告

ヒナイ川の利用状況調査(毎月1回)を3月6日(金)、4月20日(月)及び5月13日(水)に、西田川の利用状況調査(2ヶ月に1回)は4月21日(火)に実施しました。

ヒナイ川では、3月期はカヌーツアーが4組(ガイド含め15名)、4月期はカヌーツアーが11組(ガイド含め46名)、5月期はカヌーツアーが11組(ガイド含め46名)、トレッキングツアーが1組(ガイド無しで2名)、西田川では、カヌーツアーが3組(ガイド含め10名)の利用状況となりました。

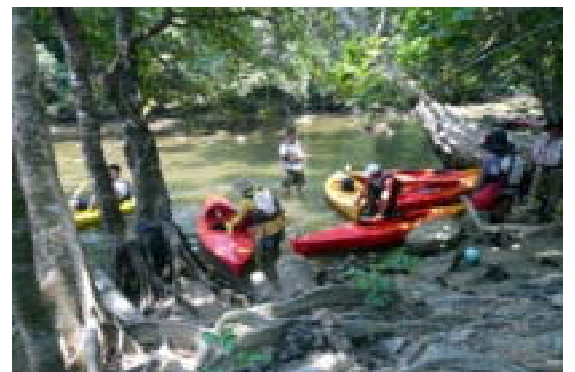
平成20年度のヒナイ川、西田川の利用実態調査の結果については、西表森林環境保全ふれあいセンターの年報「いりおもて」に掲載しており、ホームページでご覧になれます。また、冊子をご希望の方はご連絡下さるようお願いいたします。

当センターでは、昨年同様、利用状況調査を実施します。調査に当たってはご協力の程よろしくお願いいたします。

当センターでは、昨年同様、利用状況調査を実施します。調査に当たってはご協力の程よろしくお願いいたします。



4月：サンガラの滝(西田川)



5月：船着き場(ヒナイ川)

漂流・漂着ゴミの観測地点の設定及び調査の実施

西表島の国有林に面した海岸を対象に、漂流・漂着ゴミの季節毎の実態調査に着手しました。調査箇所5地区（南風見田地区、野原地区、ユチン地区、船浦地区（海中道路の外部と内部）、白浜地区）において6観測地点を設定し、毎月上旬にデジタルカメラによる定点撮影を行うこととしています。

4月9日（木）、5月8日（金）に調査を実施しましたが、4月にはあまり見られなかった枝葉が、5月は多く確認されました。一方、課題の多いプラスチック類等の漂流・漂着ゴミは、地区毎に多・少の量の違いはあるものの、4月と5月では大きな変化は見られませんでした。

環境省は、昨年度に引き続き今年度も西表島でのモデル調査を、竹富町はユチン川での漂着ゴミの回収について検討するとの新聞報道もあり、また、NPO等が主催するボランティアでの漂流・漂着ゴミの回収も実施されています。

当センターにおいては、漂流・漂着ゴミの季節毎の実態を把握し、収集したデータ等は関係機関等に提供するなど、支援活動に当たりたいと考えています。



4月：漁具類が漂着している海岸
（船浦地区）



5月：枝条が漂着している海岸
（ユチン地区）

西表島の樹木

今回も、今が見頃の西表島の植物を紹介します。

フトモモ（フトモモ科フトモモ属）

学名：Syzygium jambos (L.) Alston

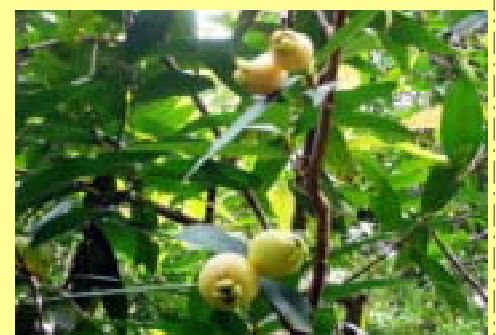
分布/インド原産で果樹として栽培。大隅半島以南から西表島などで野生化。

生育環境・形態など

ふつつ、溪流沿いなどの水辺に生え、高さ約10mに達する常緑の小高木です。葉は対生し、長楕円状披針形で鋸歯は無く、表面には光沢があります。花は、直径約4cmで3～5月頃、集散花序で白色または帯緑白色です。果実（液果）は2.5～3cmの球形または卵円形で、はじめ、緑白色を帯びていますが、熟すると黄白色となり、バラのような芳香を放ち、味は薄いですが甘くて生食できます。このことから、英語名ではローズアップル(Rose apple)と称されています。



フトモモの花（2008.03.27 仲間川）



フトモモの葉（2008.03.27 仲間川）

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>